

内部質保証シート（中期経営計画）

A	例年を上回る良い状況
B	通常の範囲内
C	要経過観察
D	改善を要する

2024年度の重点目標（学長／内部質保証推進委員会）

①昨年度に引き続き、内部質保証のPDCAサイクルと一体化した中期経営計画を推進する。

②昨年度に実施した自己点検・評価シートにより顕在化した改善課題等を把握し、取り組むべき課題を適切に取捨選択するものとする。

③その他、各部局等において可及的速やかに処理しなければならない改善課題、外部評価委員会で指摘された改善課題、内部質保証に係る各種方針の実現、新規制度等の実効性や有効性の検証などの事項について、あらゆる課題を全てPDCAサイクルに乗せる必要はなく、重要性や年度内の解決可能性などを考慮して取り組むべき課題を適切に取捨選択するものとする。

重点計画の責任者 (統轄部署等)	関連委員会	(責任者)	自己点検・評価 (Check)			改善計画・アクションプラン (Plan)				計画の取組状況 (Do)			取組状況の評価 (Check)	
			評価	中期計画 カテゴリー	事業計画/概括	改善課題 (Action)	課題/改善目標	期限	方法・手順	内部質保証推進組織による所見 または提言、助言、指示等	具体的な取組状況	取組の成果	進捗状況	内部質保証推進組織による所見
庶務部		杉谷	C	教育	カリキュラム改革に向けたタスクフォースの設置	現状は未設置である。 2023年までの設置を目指してTFの詳細を検討。	2025年3月末	詳細の素案を作成し、執行役員で決議した上で、大学評議会に報告する。	委員会において承認	スポーツ科学部カリキュラム改革・タスク検討ワーキンググループの設置を執行会で決議し、1月25日開催の第9回大学評議会にて学部長から報告した。	設置済み	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教学部	学部FD委員会	近藤	C	教育	学修成果の可視化システムの構築	現状は未構築である。 2024年までの導入を目指して、個別の学修成果可視化システムの詳細を検討する。	2025年3月末	各システム会社と検討を加える。	委員会において承認	各システム会社と検討を重ねたが本学のシステムに対応できるシステムを持った会社がなく、カスタマイズにも費用の折り合いがつかないため検討を継続する。	未構築	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教学部	学部FD委員会	近藤	C	教育	授業評価アンケートシステム導入による回収率向上と授業内容の改善	現状値は満足度87.1% 回収率34.4%のため、改善を要する。	2025年3月末	アンケートシステムの導入により、回収率向上を目指す	委員会において承認	授業アンケート回収率 体育・スポーツ科学部 37.6% 教育学部 50.9% 結果 42.6%	授業アンケートシステムは向上したが、目標には届かなかった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
情報処理センター/学部教務担当/学習支援室		堤	B	教育	オンライン教育環境の整備	現状は未設置である。 教材作成用スタジオを2025年までに設置	2025年3月末	情報処理センター委員会が実施素案を作成し、情報処理センターが実現可否の調査する。	委員会において承認	1. 令和6年度第1回情報処理センター委員会にて、教材スタジオ設置アンケートを実施し、その結果に基づき情報処理センターにて教材スタジオの仕様を策定 2. 令和6年度第2回情報処理センター委員会にて、策定した教材スタジオ仕様と今後の作業の進め方について審議を実施 3. 上記2で策定した教材スタジオ仕様についての詳細見積もりと利用率の調査を実施 4. 令和6年度第3回情報処理センター委員会にて、教材スタジオ設置可否については評議会の判断に委ねることを決定	評議会にて、当面計画を凍結することが決定された（設置費用の高さと利用率見込みの低さが理由）	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
国際交流センター		前島	A	教育	国際交流プログラムの充実	プログラム数1件	2025年3月末	国際交流センターでプログラムを作成し、センター委員会で審議・決定する	委員会において承認	1.シンガポール研修実施 2.西安体育学院との相互訪問 3.学生交流プログラムの実施 4.台湾国立体育大学との研究発表会実施	今年度は計画していた事業を全て実施した	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
国際交流センター		前島	C	教育	留学生の受け入れ増大	学部：5名 大学院：10名	2025年3月末	大学院入試に関する海外からの問い合わせに対応する	委員会において承認	学部：4名 大学院：7名 短期留学生（3ヶ月）：4名	国際交流センターでは留学生の受け入れに関するサポートを行っていない	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
国際交流センター		前島	B	教育	グローバル人材の育成に向けた国際交流奨学金制度の構築	現状は未整備である。	2025年3月末	国際交流センター委員会で審議し、執行役員・大学評議会へ提案する	委員会において承認	シンガポール研修参加学生に対して1人につき上限10万円補助金支援	シンガポール研修に15名の学生が参加し、この学生たちにそれぞれ補助金10万円を支援した	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
キャリア支援部/教職支援センター		宮崎	A	教育	教員採用試験合格者数を増大	185名	2025年3月末	早期化に伴う説明会を含む情報提供により、学生の意識向上を促していく。	委員会において承認	各自治体の教採スケジュールを随時配信。 教採の受験状況を学生も確認できるように設置。	現役学生54名、既卒者109名、合計163名（3年生前倒し受験合格者は27名）だった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

キャリア支援部		宮崎	A	教育	公務員(警察官、消防官等)就職者数を増大	62名	70名/年	2025年3月末	警察、消防等と連携し、見学会等を実施することで学生の意識向上を促していく。	委員会において承認	昨年度警察、消防等公務員関係の見学会実施3回を今年度5回以上に設定。	109名合格	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
ATコース/ スポーツ科学センター		菅生	B	教育	アスレティックトレーナー合格者数の増大	0名	5名/年	2025年3月末	ATコースとAT部門が協力し、サポート体制を強化する	委員会において承認	ATコースとスポーツ科学センターAT部門が現場及び理論のサポートを充実させた結果、3名の合格者を出すことができた。	3名合格	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局	スポーツ局執行会	梅林	C	教育	UNIVASランキングの向上	21位	15位以上/年	2025年3月末	新たな運動クラブに対する教科予算の制度を策定・実施する	委員会において承認	強化予算の活用法を今年度より変更した。外部コーチの活用など各クラブの事情に応じた強化ができるようになったものの、ランキングは24位と後退した。	24位	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局	熊取キャンパス連携推進会議	梅林	B	教育	中高大(浪商学園)一貫アスリート育成システムを活用するクラブ数	0クラブ	クラブ数/年	2025年3月末	スポーツ特別総合型選抜の内数として「高大連携アスリート枠」の設定を入試委員会で決定したため、2025年度入試に向けて実行する	委員会において承認	高大連携アスリート枠を策定し実施した。	3クラブ4名が利用。一方で内部推薦とのすみ分けについて課題が見つかった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局	スポーツ局執行会	梅林	B	教育	日本代表(世代別代表)として学生が合宿等に選出された数	48名(強化クラブ26名)/2019年	50名/年	2025年3月末	新たな運動クラブに対する教科予算の制度を策定・実施する	委員会において承認	DASHアスリートに対しては定期的な面談を通じ必要であれば科学サポートに促したが、あくまでも自主的なサポートであった。	40名	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局	スポーツ局執行会	梅林	B	教育	世界で活躍できるDASHアスリートの獲得	11名/年	20名/年	2025年3月末	新たな運動クラブに対する教科予算の制度を策定・実施する	委員会において承認	DASHプロジェクトについて再検討WGの設置がスポーツ局執行会で決定し、2024年度中に提案を検討することとなった。	9名	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
大学院事務室	大学院・研究教育委員会	石川(朋)	B	教育	リカレントとリスキリングの充実	79名(35名)	社会人大学院生44%⇒60%	2025年3月末	選定、公開方法について大学院入試委員会で検討し、研究科委員会での承認を得たうえで実施する。	委員会において承認	主に社会人に向けた制度(昼夜開講制、長期履修制度、スポーツ科学実践プログラム)の推進と、ホームページや紙媒体での入試広報活動の強化を継続中。2024年度には、スポーツ科学実践プログラムにスポーツコーチング分野が追加され、5名の社会人学生が選択している。	社会人大学院生83.3%	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局	運動部活動改革プロジェクト	神崎	B	教育	部活動指導者養成セミナーの充実	97名	申込人数100名/年	2025年3月末	運動部活動改革プロジェクトで検討したものを大学評議会で報告し推進する	委員会において承認	昨年度よりは申込者が減少したものの次年度以降に自治体から年50名程度の申請が見込まれる。またプログラムの受講形態を工夫したシステムを導入して、需要に対応した。	春開講38名、秋開講25名で63名の申し込みに終わった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教育学部学生支援担当		近藤	C	教育	学生食堂の充実と質的向上	66.7%	学生生活実態調査「学生食堂利用状況」向上 80%	2025年3月末	学生生活実態調査を通して学生の意識や行動を調査し、学生生活の総合的な満足度について実態把握の取組を行う。	委員会において承認	学生の意識や行動を調査し、学生生活の総合的な満足度について実態把握の取組を行った。	59.1%	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教育学部学生支援担当		近藤	B	教育	学内イベント(大学祭等)の質的向上	25.2%	学生生活実態調査「大学祭参加状況」向上 50%	2025年3月末	学生生活実態調査を通して学生の意識や行動を調査し、学生生活の総合的な満足度について実態把握の取組を行う。	委員会において承認	学生の意識や行動を調査し、学生生活の総合的な満足度について実態把握の取組を行った。	33.7%	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
キャリア支援部		宮崎	C	教育	キャリア支援の充実	34.5%	学生生活実態調査「キャリア支援センター利用状況」向上 50%	2025年3月末	必修科目「キャリアデザインⅠ」の授業時に2年次早期でのキャリアの意識付けの徹底とキャリア支援センターの利用方法について案内し、意識を促していく。	委員会において承認	2年後期開講「キャリアデザインⅠ」の授業終了後に、進路検討について学生がキャリア支援センターへ来てもらうように説明。	32.5%	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教育学部学生支援担当		近藤	B	教育	学生生活の総合的な満足度向上	71.5%	学生生活実態調査「満足度」向上 80%	2025年3月末	学生生活実態調査を通して学生の意識や行動を調査し、学生生活の総合的な満足度について実態把握の取組を行う。	委員会において承認	学生の意識や行動を調査し、学生生活の総合的な満足度について実態把握の取組を行った。その結果、満足度は向上したがわずかに目標に届かなかった。	76.5%	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
DS論TF		三島	A	教育	ラーニングコモンズ×デジタルスポーツスクエアの整備	現状は未整備である。	2025年に整備	2026年3月末	2024年度中に整備を完了する。	委員会において承認		整備完了	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教育学部教務担当		山野	C	教育	学生が実際に執筆した論文や発表を行った際の動画などを学外公開	0件	公開する高い水準の学修成果の数 2027年までに30件	2028年3月末	選定、公開方法についてカリキュラム委員会、教務委員会で検討し、教授会で承認を得たうえで実施する。	委員会において承認	各学部の当該委員会で他大学(愛媛大学)の取り組みを参考に検討を進めている段階にあり、現状成果は未達である。	未達	検討中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部研究支援担当		瀧	B	研究	科研費の採択件数の向上	代表：14件(新規2件) 分担：16件(新規6件)	30件以上/年	2025年3月末	科研費勉強会の開催及び外部支援業者による研究計画調書の内容レビューを行う。	委員会において承認	年度初めに科研費勉強会を実施。また公募に際し、外部支援業者による研究計画調書の内容レビューを行った。	代表16件(新規7件)、 分担23件(新規2件)、 合計39件の課題件数	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

庶務部研究支援担当		瀧	B	研究	「地域中核・特色ある研究大学の振興」連携機関として参画	0件/件	1件/年	2025年3月末	連携機関として継続参画し、研究計画を改良しながら採択につながるよう寄与する	委員会において承認	文部科学省が公募した令和6（2024）年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に連携大学として参画し、採択された。（立命館大学が申請し、本学は連携大学）	1件の採択	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部研究支援担当		瀧	C	研究	自治体・企業・公益法人等の受託事業収入の増大	1,080万円/2023年度	1,500万円/年	2025年3月末	まずは情報公開の面で、HP上で問い合わせ窓口の設置や実績、シーズの見える化などに今後継続して取り組む。	委員会において承認	自治体等の委託により複数年継続していた事業の中で、いくつか本年度から実施がなくなったものがあり、その影響を受け前年度実績の70%を下回る結果となった	699万円	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部研究支援担当		瀧	B	研究	研究工フォートの適切な管理	30%/2023年度	研究計画書「研究工フォート欄」平均30%/年	2025年3月末	根本的には授業負担の軽減等、大きな改革が必要。当面は著しく目標値を下回ることがないか、モニタリングを実施する。	委員会において承認	目標値は達成している状況。今後外部資金獲得増に向けても、授業・委員会負担の軽減やパイアウトをはじめ各種支援制度の策定等、研究時間の確保に向けた種々の検討が求められる。	31%	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部研究支援担当		瀧	C	研究	在外研究の積極的活用	0名	1名/年 ※規程上1名上限	2025年3月末	サバティカル制度と併せ学部研究委員会で推進策を検討する	委員会において承認	研究委員会で具体的な議論に発展させることができなかった。次期委員会での継続検討とする。	0名	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局		梅林	B	社会貢献	トップスポーツクラブの多様目スポーツクラブ化への協力	1クラブ	クラブ数を4クラブ	2028年3月末	法人事務局と情報を共有し、適宜必要な協力を実施する。	委員会において承認	各クラブに対して必要に応じて学内外の情報を提供するなどした。バレーボール部女子がトップスポーツクラブと連携し取り組んでおり、また他クラブでも教室事業を計画するなど取り組んでいる。	1クラブ	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局	スポーツ局執行会	梅林	A	社会貢献	大学のスポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業	2023年度採択	スポンサー獲得による自走化	2028年3月末	セールシートを作成し企業へ営業を実施する	委員会において承認	11月25日（月）にマッチスポンサー・株式会社エイブルのフレンドリーマッチを実施。	500名の観客数は史上最多であった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
入試部		古家	A	社会貢献	高等学校への出前講座の充実	12件/2023年 5件/2022年	15件/年	2025年3月末	教員との連携を密にし、高校からの要望に対応する。	委員会において承認	業者を通しての開催が5件、高校直の開催が6件、大学見学会における開催が4件の計15件を実施。	高校との関係強化に繋がっており、今後の志願者増に結び付くと考える。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
社会貢献センター		中山	B	社会貢献	高等学校の「総合的探究の時間」への支援充実	2件/年	3件/年	2025年3月末	外部からの依頼に対し、学内で対応できる教員に打診する。	委員会において承認	府内2校（大塚高校、さくやこの花高校）で実施。	将来的な学生募集に資するか考える。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
入試部		古家	B	社会貢献	大学訪問への対応	11件/2023年 13件/2022年	20件/年	2025年3月末	高校訪問時に大学訪問受け入れのフライヤーを配布し認知を深める	委員会において承認	業者を通しての開催が4件、高校直での開催が8件の計12件の対応。	実際の施設を見ることにより、今後の志願者増に結び付くと考える。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
全部局 (庶務部学長室担当)		田中	A	社会貢献	スポーツSDGsの推進	0件	10件/年	2025年3月末	大学内で完結させず、様々なステークホルダーと協力しながらスポーツSDGsの推進を図る	委員会において承認	「スポーツ廃棄物再生」をはじめとする活動では、企業やNPO、行政と協働しながら、社会にインパクトを与えるプロジェクトの取り組みを進めた。	153件（可視化されたもののみ）	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
社会貢献センター		中山	B	社会貢献	学生ボランティアの活動促進（子ども運動教室、泉大津市子ども体力向上事業）	14件	14件/年	2025年3月末	外部からの依頼に対し学内メールで学生に周知し、希望者を募る。	委員会において承認	14件の事業で学生を派遣した。	学内での授業、クラブ活動以外で学生の活躍の場を提供した。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教職支援センター		木谷	A	社会貢献	グッドコーチの部活動紹介	14名(9/25現在)	20名/年	2025年3月末	グッドコーチ（大阪体育大学学生）の地域部活動への紹介を行う	委員会において承認	去年を上回る人数を地域部活動へ紹介することができた。	29名	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
社会貢献センター (スポーツ局)		中山	B	社会貢献	外部機関・近隣地域/自治体/公益財団法人との連携強化	13件	15件/年	2025年3月末	連携協定を結んでいる各団体との事業を実施する。	委員会において承認	19件の事業を実施した。	計画を上回る件数の事業を実施した。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
社会貢献センター		中山	B	社会貢献	小学校・中学校の教員研修支援事業数	25～28件	30件/年	2025年3月末	ホームページでの告知およびパンフレットの郵送によって小中学校等から募集し、教育学部教員を派遣する。	委員会において承認	計17件（研究協力1件含む）の講座を実施した。	目標数には届かなかったが、教育学部教員と小中学校等の連携は他の形でも行われるようになっており、社会貢献の目的自体は達成している。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		田中	B	組織・運営	職員各種委員会への配置	委員の比率19.1%	委員の比率30%	2028年3月末	委員会組織の見直しを図り、併せて職員各種委員会への配置を進める。	委員会において承認	教職協働を推進するため、職員各種委員会への配置を含めた委員会の見直し等を行った。これにより構成比は19.1%から25%となった。また、2つの委員会（全学教務委員会、キャリア支援委員会）において、職員が委員長の職に就いた。	目標の30%にはわずかに届かなかったが25%への引き上げに成功した。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

入試部		古家	A	組織・運営	実志願者数の増大	894名/2022年	1,000人/年	2025年3月末	アナログ戦略とデジタル戦略を軸に募集活動の充実を図る。	委員会において承認	実志願者数は、1,133人となり、昨対比114.3%、1,000人の目標を達成した。	更に募集活動（CMやガイダンスなど）を強化して認知度をあげ、接触した高校生にはしっかりと本学の良さを伝え学びたい欲を高める。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		田中	C	組織・運営	大学等改革総合支援事業タイプ3+タイプ1獲得	1タイプ採択/2022年、2023年	2タイプ採択/年	2025年3月末	各機関に協力を依頼し、	委員会において承認	タイプ3については各機関の協力もあり昨年度に引き続き採択となったが、タイプ1については学内で検討を進めたものの、基準点には及ばず不採択となった。	タイプ3：採択 タイプ1：不採択	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		田中	B	組織・運営	文部科学省により定められた教育の質に係る客観的指標の向上	「+1%」/2023年 「-2%」/2022年	「+6%」/年	2025年3月末	学内規程の見直しや制度の新設に加え、各部署や教職員にも協力を依頼する。	委員会において承認	目標値には届かなかったが、庶務部学長室担当の推進により要件対応を進め、傾斜配分最高の+6%のところ+4%（前年度+1%）という結果となった。また、年度末に設問対応を行い2025年度は+5~6%を見込んでいる。	4%/2024年	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		田中	B	組織・運営	2025年度に記念式典・祝賀会の開催、記念誌の発行	未着手	成功裏に完遂	2026年3月末	開学60周年記念事業準備委員会を設置し、委員会内で検討を行う。	委員会において承認	開学60周年記念事業準備委員会を設置し、委員会内で検討を行った結果、記念式典・祝賀会・記念誌の発行は行わないことに決定した。	未実施	完了	計画が適切に完了したことを確認した	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		田中	B	組織・運営	60周年記念として施設の改修や教育施設環境の整備(外観美化、補修等)	未着手	改修着手	2026年3月末	開学60周年記念事業準備委員会を設置し、委員会内で検討を行う。	委員会において承認	開学60周年記念事業準備委員会を設置し、委員会内で検討を行った結果、施設の改修や環境整備は行わないことに決定した。	未実施	完了	計画が適切に完了したことを確認した	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
広報室	広報・プランディング委員会	大坪	B	組織・運営	HPを用いた広報活動の充実	618,005件/2023年 698,628件/2022年 775,684件/2021年	アクセス数800,000件/年	2025年3月末	新規コーナー、レイアウトの一部変更などHPの刷新に努め、SNS広告によるHP流入を図っている	委員会において承認	HPのレイアウト変更、積極的なお知らせ発信により、HPの訪問者増をめぐしている	72328件/2024年	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
広報室	広報・プランディング委員会	大坪	B	組織・運営	メディア掲載数の増大	88件/2023年 75件/2022年	100件/年	2025年3月末	記者との私的な付き合いも含めて信頼関係の醸成に努めている。また、後述のヤフー記事の充実により、ヤフー記事を見て取材に訪れる記者が増える効果も生まれている	委員会において承認	積極的なプレスリリースに努めたが、数字が伸びなかった背景には、メディアに頼らず、本学自らスポーツナビに積極投稿した影響も考えられる	64件/2024年	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
広報室	広報・プランディング委員会	大坪	A	組織・運営	ニュース発信数の増大	364件/2023年 351件/2022年	400件/年	2025年3月末	昨年12月からヤフー・スポーツナビへの記事配信を始め、1年で104万PV、記事200本に達した。同社によると、本学の記事が全国の大学で最も多く視聴されており、発信数、視聴数増に寄与している	委員会において承認	スポーツナビを通じて他学をはるかに上回る積極的な投稿に努めた	436件/2024年	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
広報室	広報・プランディング委員会	大坪	C	組織・運営	プレスリリースの増大	20件/2023年 20件/2022年	40件/年	2025年3月末	従来はリリースしなかった内容のニュースでも積極的にリリースしている。またリリース先も記者クラブのみではなく、これまでに取材で知り合った個人的な記者に拡大している	委員会において承認	引き続き意欲的な投稿に努めた	20件/2024年	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		田中	B	組織・運営	第3期認証評価結果・第4期認証評価基準への対応	対応中	2026年までに対応	2026年3月末	内部質保証推進委員会や自己点検・評価委員会を中心に、評価基準への対応を検討する。	委員会において承認	内部質保証推進委員会や自己点検・評価委員会を中心に2025自己点検・評価報告書を作成し、外部評価委員会で外部の意見を取り入れることで本学の課題を洗い出した。	未対応の課題については来年度以降対応する。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		田中	B	組織・運営	SD・FD研修の充実	FD：4件 参加78.5% SD：1件 参加率38%	5件/年参加率100%	2025年3月末	研修会の数を増やし、オンデマンド配信することで受講しやすい環境を整えるとともに、案内を適切に行い受講の必要性を周知する。	委員会において承認	研修会の数を増やし、オンデマンド配信することで受講しやすい環境を整えた。また、未受講者に働きかけを強化することで受講率を上昇させた。	FD：5件 SD：4件 FD・SD：2件 合計11件 <参加率> FD 81.8 % SD 51.1 %	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		田中	C	組織・運営	危機管理体制の再構築	委員会等の設置	関連規程等の見直し/2023年度中	2024年3月末	危機管理規程等の見直しを実施する。	委員会において承認	危機管理規程等の見直しを行った。	完了	完了	計画が適切に完了したことを確認した	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
庶務部学長室担当		田中	C	組織・運営	危機に関する情報提供体制の構築	メール等での提供	ポスター、展示、啓発の機会 各1回/年	2025年3月末	啓発活動のため、ポスターや調査などを実施する。	委員会において承認	啓発活動のため、ポスターの作成や調査などを実施した。	完了	完了	計画が適切に完了したことを確認した	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。